

紙季折々

しき❀ありあり

日本製紙グループ

環境・社会コミュニケーション誌

Vol.5

冬

日本の森について学び 日本製紙の社有林を知る

あるときは木材や燃料、そして食物などの宝庫として。あるいは環境と生態系のバランスを保つ装置として。信仰の対象として。文化を育む舞台として。森林は私たちに多大な恵みを与えてくれます。日本の森林面積は、国土の約67%。世界の森林面積が陸地の約30%ですから、日本はまさに森林の国といえます。しかし現在、日本の森林環境は危機を迎えています。今号では、日本の森についての知識を深めながら、日本製紙グループと日本の森の関わりについて学んでいきます。

日本の森林を知る

今、世界では年間に九州2つ分(730万ha)もの森林が失われ続けており、世界の陸地面積に占める森林の割合は約30%とされています。一方、日本の森林は約2500万ha。国土の約67%を占めており、島国ニッポンは、緑が広がる世界有数の森の国です。

日本の森林面積は、1966年以降ほとんど変化していませんが、森に蓄えられた木材の量を示す蓄積量が当時と比べ二倍近くまで増加していることはあまり知られていません(図1)。国内森林面積の約5割を占める天然林の蓄積量はほぼ横ばいですが、人工林の蓄積量が大幅に増加しており、それにもない森林に固定される二酸化炭素(CO₂)の量も増えています。



出典: 林野庁業務資料

森林の豊かな「恵み」と多様な「働き」

森が私たちに与えてくれる恵みは多種多様です。「森は海の恋人」という本の著者で気仙沼の漁師の畠山重篤さんは、森は海に栄養分を与え豊かにしてくれる存

日本製紙の国内社有林

日本製紙が国内に所有する森林は、約9万ha。民間では全国第2位の森林所有者です。当社にとって森林は経営資源として重要な意味を持つ一方、森林とともに生きる企業として、森林の多面的な役割を認識しその維持に努めています。そのため、国内社有林の約80%は木材生産の場として活用する経営林分に設定した上で多面的な機能を維持するよう森林管理を実施。残りの約20%は環境林分として、生態系保全や水源涵養などの環境機能を保全するために、木材生産目的の伐採を禁止しています。

日本製紙は、豊かな日本の森林を維持、育成し、次の世代に引き継いでいけるよう、森林とともに歩んでいきます。

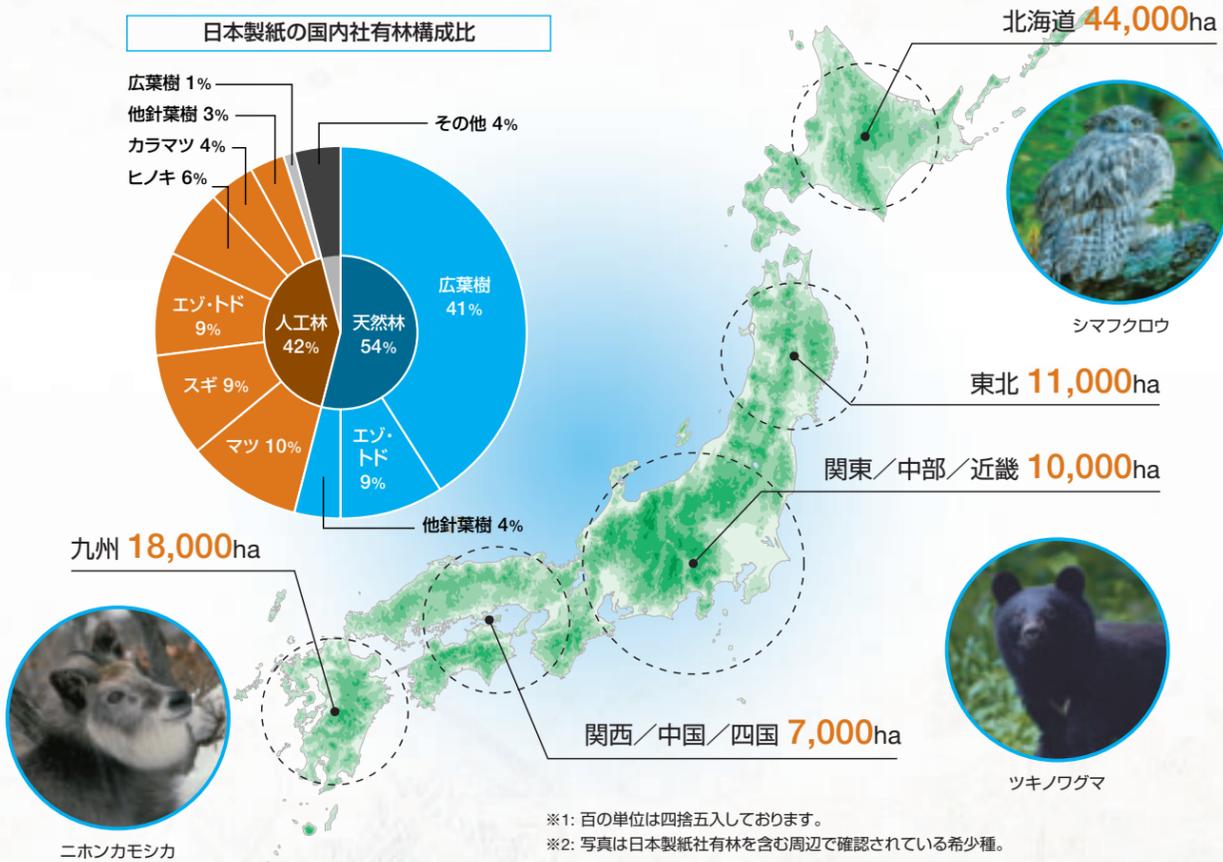
社有林トピックス①

国内全社有林で森林認証を取得

森が森であり続ける。その持続性を評価するのが森林認証制度です。2007年10月、日本製紙では、国内すべての社有林でこの森林認証の取得を完了しました。今回取得したSGEC森林認証は、日本独自の森林認証制度です。日本の風土に適した形で、水源涵養や生物多様性など森林の多面的機能を維持し、持続的な森林経営が行われているかを審査します。

日本製紙の社有林は、生物多様性に配慮しながら各地の自然環境に適した森林施業を行ってきたことが評価されました。今後もこの認証基準を順守しながら、持続可能な森林経営を行ってまいります。

日本製紙国内社有林 約9万ヘクタール (ha) の分布

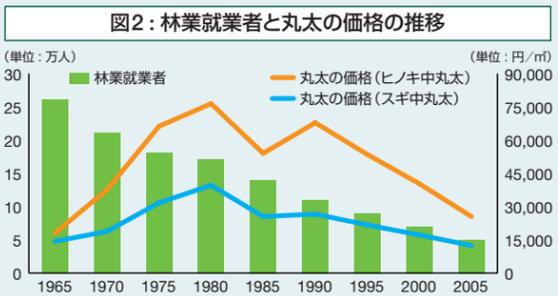


森林の悩める現状とは!?

在と本の中で強調しています。また、「緑のダム」という言葉がありますが、これは雨水を森林が蓄えることにより洪水の緩和や水質の浄化が行われることを指しています。この他に前号(Vol.4)のテーマだった生物多様性の保全、森にCO₂が固定されることによる地球温暖化防止等々、私たちの生活に必要な木材を供給してくれるだけでなく実に多様な機能があります。環境資源としてのこれらの機能の中で、金額換算できるものを試算した森林の評価額は、ある試算では年間で70兆円にも及ぶといわれています(※)。身近にあるのが当たり前でありがたみに気付くことの少ない森林ですが、その恩恵の大きさについて考えさせられる数値です。

※ 日本学術会議答申

面積は横ばいで推移している日本の森林ですが、その現状と将来は決して楽観視できるものではなく、むしろ危機的状況を迎えています。国内産の丸太は、低価格で取引される外材の影響を受け、1965年当時の価格水準まで下落しました。その結果、林業では生計を立てられなくなり、「林業就業者の減少」や「木材自給率の低下」を引き起こしたのです(図2)。



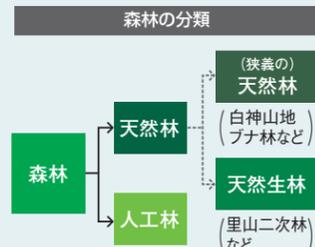
出典: 林業就業者 総務省「国勢調査」
丸太価格 農水省「木材需給報告書」

人の手により作られた森林は、農作物などを育てると同様に、人の手を入れないと荒廃してしまいます。農作物を育てるときに行う間引きを、林業では間伐と呼びますが、林業の衰退とともにこの間伐が実施されずに荒れた森林が全国に広がっている上、伐採したあとに植林されることなく放棄された森林も問題になっています。

前々号(Vol.3)で、大気中に排出されるCO₂を固定していく上で、森林はある程度成長した時点で伐採し、木材や紙で維持するのが有効であると述べました(コラム2「森と紙は炭素の缶詰」参照)。屋久島や知床のように自然遺産として後世に残していくべき森林から、積極的に手を入れ利用していく人工林まで、目的により森林の管理方法を考えていく必要があります。

コラム ナルホド! 森の豆知識 「天然林」ってどんな森!?

本紙でも使われている「天然林」という言葉、どのような森林を示しているかご存知でしょうか。実はこの言葉、使う人によってその定義が異なることがあり、誤解を生むことがあります。使い方としては、「人工林」の対語としての「天然林」が一般的です。つまり、人為的に更新(植栽・直播き等)した以外の森林は全て天然林となり、「天然林」の定義は「自然の力で成立した(天然更新した)森林」となります。よって、伐採などの人為的な攪乱のあとに天然更新した森林(天然生林:里山など)も天然林に含まれます。その一方で生態学などでは、火災や強風など自然攪乱により天然更新した人手の加わっていない森林のみを「天然林」と定義します。つまり日本でもわずかしが残っていない原生林のような森林のみが天然林となります。



社有林トピックス②

森と紙のなかよし学校

森を通じて自然の恵みを実感してほしいとの思いで始まったのが、小学生を対象とする自然教室「森と紙のなかよし学校」です。日光国立公園に位置する菅沼社有林にて始まったこのプログラム。現在では、熊本県の豊野社有林でも行われるようになりました。グループ各社の有志スタッフによる手作りの活動ですが、参加して下さった小学生やその家族の皆さん、スタッフにとっても、森から多くのことを学ぶ活動となっています。



社有林トピックス③

日本百名山と社有林

深田久弥さんの選定による日本百名山。品格・歴史・個性を選定基準として選ばれた名峰は、登山家のみならず多くの人を魅了しています。実はこの百名山に、当社有林から日光白根山(2,578m 群馬県・栃木県)と鳳凰山(2,840m 山梨県)が選ばれています。また百名山以外にも、国立公園に含まれる社有林は、阿寒国立公園、日光国立公園をはじめ計8国立公園、5,498haに及びます。



紙と書き文字は、なくしてはならない文化だと思います。

大ベストセラー『女性の品格』の著者であり、日本の古典文学にも造詣が深い坂東眞理子さんに、平安朝時代から連続と続いてきた「書き文字文化」について語っていただきました。

昭和女子大学では日本文学を専攻している学生に限らず、一年生全員に「美しい日本語」という講義を必須科目として教えています。たとえばその講義の中で、親と高校時代の恩師に宛てて、挨拶状と近況報告を書かせています。

今はコミュニケーション手段の中心は電話やメールで、手紙を書く習慣がないんですね。ですから、照れくさいなんて言って皆さん嫌がりますけど、手紙をもらった親御さんや恩師の方は本当に喜んでくれるそうです。パソコンがないと何も書けない、思いが浮かばないという学生も多いようですが、美辞麗句にならなくても、心をかける、時間をかけて手紙を書くということは豊かで、素晴らしい文化だということをお伝えしたいと思います。

拙著『女性の品格』の冒頭に、品格のある交際は、まず礼状を書くところから始まると書いたのも、具体的に明確にやれることを最初に提言したいと思ったからです。礼状を書くというのは、やろうと思えばできるけど、ついやらないことです。欧米では正式な礼状を書くのは大変なので「サンキューカード」が市販され、ちよっとした言葉を一言書き添えて、サインをして出せば用が足りる

という簡便な文化が発達しています。既製品のカードとはいえ、そこに言葉を手書きして、それを郵便で届けるというのは丁寧なコミュニケーションだと思います。日本ではメールや電話でお礼の気持ちだけ伝えればいいやとか、それさえしない人が多いようです。文化を大事にしなければいけないんじゃないでしょうか。

手紙といえば奈良時代には木の札や竹に書いていましたが、平安時代になると宮廷の人達が軽くて持ち運びがしやすい紙を使うようになるんですね。

自分が書いた歌を思いに持たせて、恋人や友人のところへ届ける。たとえば『和泉式部日記』の最初を読むと、夭折した恋人の為尊親王の弟・敦道親王から、ちよど橘の花が咲いている一年前に亡くなった人のことを思い出していますか、という歌が橘の枝に結び付けられて和泉式部に届く。それに対する返歌をして恋が始まり、式部が親王邸に入るまでの経緯を綴ったのが『和泉式部日記』で、当時は歌そのものが心を打つかどうかに加え、どういふ紙に、どういふふうな演出で届けるかということもとても大事な要素だったことがわかります。筆蹟もとても重要で、女性の必修教養でした。

平安時代には紙は大変貴重なもので、当時の日記には上流貴族が紙を贈り物としていた記述があります。『枕草子』は清少納言の随筆ですが、中宮定子の兄である藤原伊周が草子（料紙をノート状に綴じ合わせた物）を中宮に献上した時、中宮が「枕にせよ」と言ってその草子を清少納言に与えた。それに、清少納言は枕草子を書いたというエピソードがあります。

昔は印刷機があるわけじゃありませんから、書いたものを誰かがさらに書写して流通するんですね。そういった意味で紙は当時としては大変貴重なメディアで、紙の発達と文化の発達には深く結びついていたと思います。

日本人は紙に愛情をもって関わってきた歴史がありますし、紙と書き文字は、なくしてはならない文化だと思います。



PROFILE

ばんどう まりこ

1946年富山県生まれ。東京大学卒業。69年に総理府入省。内閣広報室参事官、男女共同参画室長、埼玉県副知事等を経て、98年に女性初となるオーストラリア・プリズベンの総領事に。2001年、内閣府初代男女共同参画局長。04年、昭和女子大学教授を経て、現在は昭和女子大学学長、同大学女性文化研究所長。近著は『親の品格』（PHP新書）、「愛の歌 恋の歌」（関東図書）。

坂東さんの新著『愛の歌 恋の歌』が紹介されている古今和歌集の書



環境・社会活動カレンダー【2007年10月～2008年1月】

- 2007年10月3日 国内の全社有林（約9万ヘクタール）でSGEC森林認証を取得完了
- 12月13日～15日 エコプロダクツ2007に出展
- 12月21日 日本製紙USA ポートアンジェルス工場ISO14001認証を取得
- 2008年1月22日 ロン・ティボー国際音楽コンクール ガラコンサートに特別協賛 視覚障害者の方々を招待

TOPIC

「挿し木苗」の名称が決定

日本製紙グループが生産する「挿し木苗」(Vol.4で紹介)の名称が、「フォトグリーン®」に決まりました。日本製紙グループ社員から募った219通の中から選ばれたこの名称は、植物が必要とする光(フォト)を調節し、元気な緑(グリーン)の苗を作るといふ「挿し木苗技術」を表現しています。



編集後記

おかげさまで紙季折々も第5号の発行と、無事2年目を迎えることができました。初めての冊子作りで、タイトルの決定から文章の作成まで試行錯誤の珍道中でしたが、ここまでご好評をいただきながら発行できたのも、ひとえにご協力いただきました皆様のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。さて、今号に私が撮影した写真を一枚使用させていただきました。表紙の写真といたいいところですが、そうではなく、社有林トピックスの秋の日光白根山の写真です。日光白根山は、関東以北の最高峰で2,578メートルの高さを誇る百名山のひとつですが、2,000メートルまでゴンドラであがれる上、その後はきちんと整備された登山道を登っていくため、快適に百名山を体験できます。運動不足、メタボ予備軍の私も、すいすい登っていく妻に大幅に遅れをとったものの、無事山頂に到着。透き通るような青空を堪能いたしました。(笹間)

お問い合わせ先 株式会社日本製紙グループ本社 CSR室 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)
TEL: 03-3218-9321 FAX: 03-3216-1366
ホームページ <http://www.np-g.com/inquire/> (お問い合わせ) <http://www.np-g.com/appliform/> (資料請求)



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%